

夏秋どりピーマンの新品種 ‘グッピー’

1 新しい品種の内容

(1) 背景・目的

夏秋どりピーマンは青枯病をはじめとする土壌病害により生産不安定となりやすく、耐病性品種の‘京波’（タキイ種苗）が用いられているが、先とがり果が多く、秀品収量が少ないことが問題となっている。

そこで、2019年から2020年度に品種比較試験を実施し、‘グッピー’（横浜植木）を検討した結果、耐病性、収量品質が安定し、有望であったので、その特性を紹介する。

(2) 品種 ‘グッピー’ の特性の要約

- 1) 草丈は‘京波’よりもやや低い。
- 2) 果色は‘京波’よりも濃く、暗黄緑色である。
- 3) 総収量および総果数は‘京波’より少ないが、規格外品が少なく可販果収量は同等である。
- 4) 先とがり果は‘京波’よりも少なく、秀品収量が多い。
- 5) 青枯病の発病度は‘京波’と同程度である。

2 試験成果の概要

2019年及び2020年の2か年にわたり、5月下旬定植の夏秋どり作型において、標準品種‘京波’に対する‘グッピー’の生育、収量、品質などの特性を比較調査した。

(1) 生育

生育期、収穫終了時の草丈は‘グッピー’がやや低く、茎径も‘グッピー’が細い傾向だった。節数について大差は認められなかった（表1）。

(2) 収量

2か年とも‘グッピー’の総収量、総果数は‘京波’より少なかったが、規格外品を除く可販果収量は同等で、秀品収量は‘グッピー’が多かった（表3）。

(3) 品質

同階級（L品規格）の果実について調査した結果、果実長、果実径、糖度とも大きな差は認められなかった（表2）。果皮色は‘グッピー’が‘京波’よりも濃い緑色だった（図1）。

先とがり果の発生は両品種とも収穫後半になるにつれて増加する傾向がみられたが、‘グッピー’は全期間をとおして‘京波’よりも発生が少なく、果形が安定していた（図2）。

(4) 青枯病耐病性

2020年に園芸試験場内の青枯病甚発生ほ場において‘京波’と‘グッピー’青枯病耐病性を比較した。その結果、両品種とも青枯病の耐病性を持たない‘京まつり’より発病度は低かった。初発は両品種とも同時期であったが、発病度の進展は‘グッピー’の方がやや遅い傾向だった（図3）。



図1 果実の外観

表1 生育調査 (2020)

品種名	草高 (cm)		莖径 (mm)		節数 (節)	
	生育期	収穫終了時	収穫終了時	収穫終了時	収穫終了時	収穫終了時
京波	65.4	103.4	24.6	12.4		
グッピー	60.3	87.2	22.5	12.9		

※定植：5/19 生育期調査：7月11日、収穫終了時調査：11月6日

※節数は1番果以降に分枝した最終収穫果実の節位を示す

表2 果実調査

品種名	1果重 ^x (g)	果実長 ^x (mm)	果実径 ^x (mm)	糖度 ^x (Brix)	果皮色 ^y
京波	37.9	72.1	42.6	3.3	3507 (濃黄緑)
グッピー	37.9	72.5	42.5	3.6	3107 (暗黄緑)

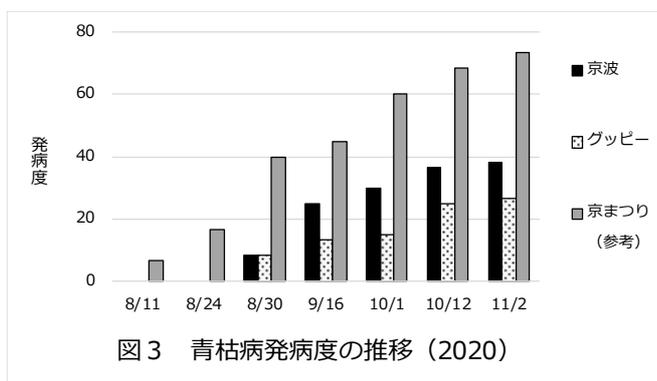
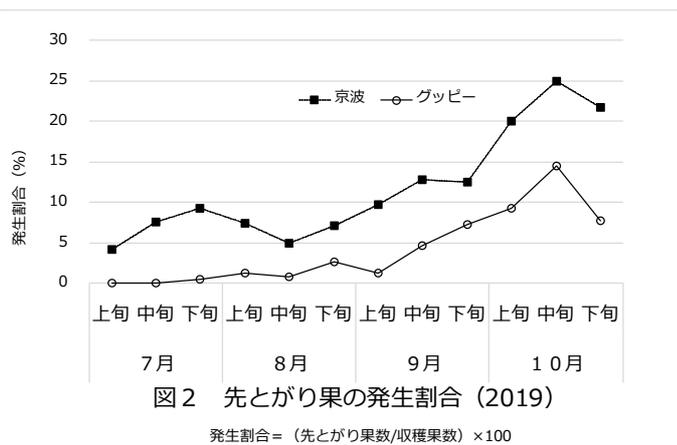
※^x2020年8月13日、9月12日、10月12日に各区10果のL品を計測した平均値。

※^y2019年9月26日調査。番号は日本園芸植物標準色票による。

表3 収穫調査 (株当たり収量)

試験年度	品種名	総収量		総果数 (個)	平均 1果重 (g)	可販果収量						規格外	
		(g)	(対比)			秀品		優品		合計		(g)	(対比)
2019	京波	8822	100	253	34.9	4965	100	2066	100	7030	100	1791	100
	グッピー	7495	85	215	34.8	5817	117	766	37	6583	94	912	51
2020	京波	7974	100	229	34.9	4642	100	2247	100	6889	100	1084	100
	グッピー	7358	92	208	35.4	5776	124	816	36	6591	96	766	71
分散分析	年度	ns		ns	ns	ns		ns		ns		*	
	品種	*		**	ns	*		**		ns		*	
	交互作用	ns		ns	ns	ns		ns		ns		ns	

※分散分析：*は1%水準、*は5%水準で有意差があることを示す。nsは有意差なし。



3 普及の対象及び注意事項

(1) 普及の対象

本県中山間地域の夏秋どり作型

(2) 注意事項

- 1) 標高 550m の日南試験地における夏秋どり栽培試験の結果であり、低標高地及び他の作型では事前に適応性検定が必要である。
- 2) 青枯病激発圃場では、土壤消毒や耐病性台木の併用も検討すること。

4 試験担当者

日南試験地	試験地長	小谷和宏	環境研究室	主任研究員	田中陽子
	研究員	前田真吾		研究員	松村和洋